

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お一人お一人に応じた生活支援。その人らしさを尊重しながら安心して生活できる環境を提供。生活に必要な能力を最大限に発揮できるように援助。この地域に生活する住人として社会参加、社会貢献ができる施設を目指す。」という理念をつくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1ヶ月に1度の管理者との職員会議でその人らしさの支援ができるよう取り組んでいる。自治会にも入会し、2ヶ月に1度の運営推進会議には地域の方が必ず参加しており近所の情報を共有している。。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には地域との関わりを運営推進会議や面会時以外にも毎月のお便りで報告している。地域では散策時の挨拶や声掛けで見学やお茶飲みのお誘いをして実際に訪問もありグループホームの意義を理解してもらえよう説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議では民生員の方を通じ情報交換が行なわれている。散策中に挨拶を進んで行き、近所の方から温かい言葉もいただけるようになっている。職員も気軽に声をかけ付き合いが増えている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており集会に参加している。今年度は班長になっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献	運営推進会議や自治会の集会、職員会議などで地域の情報を収集し当事業所内のデイサービスの施設の活用などを案内している。		
	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用	事前に職員には自己評価表を確認してもらい個人で改善できるところを考えてもらった。職員会議では具体的な改善策を検討した。		
	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議には包括支援センター、自治会、家族以外にも、消防や保健所に講座を依頼しサービス向上に取り組んでいる。		
	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている			
9	○市町村との連携	運営推進会議においては、憶南地区地域包括支援センターに参加していただき、センター職員出席のもと、地域関係者、家族参加で、サービスの質の向上に努めている。		
	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	職員会議で運営者と管理者による説明があり、必要性のある方には活用できるよう話し合った。		
	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	○虐待の防止の徹底	虐待防止については利用者の変化があった際はすぐに管理者に報告を行なっている。管理者は予測、原因追及、話し合いを行う。管理者は運営者に報告を行い防止に努める。		
	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	利用契約書と重要事項説明書にて十分な説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御意見箱の箱の玄関への設置、苦情相談窓口の案内の提示。市介護相談員の月に1度の訪問を受けている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	ホーム便りを発行し家族へのお便りには食事、睡眠、日中の様子、健康状態を担当職員がまとめて記録し毎月郵送している。金銭管理、職員の異動等については面会時に報告している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御意見箱の設置、苦情相談窓口案内の玄関への提示。面会時や電話での家族の意見は会議で取り上げ信頼づくりに努めている。更に、運営推進会議において、利用者（家族）から施設に対する意見・要望をだしていただき改善できる内容、参考となる意見はそれを受入れ、運営の向上に努めている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月の職員会議で反映されている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者及び職員で話し合いを行い、勤務の調整を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮			
	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代わりに入った職員には事前に実習に入ってもらっている。利用者が馴染むまで他の職員がカバーしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み			
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には管理者や職員に参加してもらい、研修報告書は必ず全職員が内容を把握するようにしている。職員会議などでその内容を報告し、技術や知識を得られるよう配慮している。	○	スキルアップのため研修案内を個人的に勧めている。今後は全ての職員が研修会等に参加できるよう配慮していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上			
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修等に参加しており、サービスの質の向上に励んでいる。他グループホームの来訪の受け入れや情報交換のために訪問を行なっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み			
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は食事会などを行い職員との気軽な話し合いの場を作りストレス軽減に取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み			
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員の実績、勤務状況の把握に努め向上心が持てるよう助言をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	訪問し御本人の環境の状態を伺い、会話や表情から何を求めているのか観察しながら傾聴している。希望も出来る事から取り入れるよう努力している。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	電話連絡、訪問調査を行い優先順位を考え、じっくりと話し合いを行い、家族の想い出来る限り近づけるような目標作りに努めている。	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談を受けた時点の「その時」の状況により地域包括支援センターやデイサービス、ケアホーム、ショートステイの案内など必要に応じて行なっている。	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居希望者や家族等に見学をしてもらっている。全体の場の雰囲気に馴染めるよう出来る限りの環境整備を行っている。家族には利用者が日常生活で使っていた馴染みの物を用意してもらった。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、その人らしさを尊重し一緒に散歩や買い物、洗濯物たたみなど日常生活の中で喜怒哀楽を共感し、お互いに褒める所は褒めたり助言を行ったりして支え合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係	家族による行事の参加や病院受診、外出や自宅帰省の協力がある。		
	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている			
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援	入所時にケアマネによる密な聞き取りを行なっている。その内容が介護支援計画に反映されている。		
	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援	手紙や電話のやりとりを行なっている。また昔馴染みの病院などをかかりつけ医にしている。併設のデイサービス利用者の中に同級生がいるので面会されている。		
	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
31	○利用者同士の関係の支援	生活支援の中で利用者同士の会話や表情などから快、不快などを考え、座る場所を交代してもらうなど、その時に応じ皆で関わってもらっている。		
	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている			
32	○関係を断ち切らない取り組み	契約終了後に継続的な関わりを必要とする方はいない。	○	今後に契約終了後も継続的関わりを必要とされる方には出来る限り協力していきたい。
	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまで過ごしてきた生活習慣の継続支援として、居室に冷蔵庫を置いて好きな時に使用したい要望があり、日付のチェックや在庫確認を行なっている。訴えの困難な方には表情や動作で本人のニーズに答えられるようにしている。	○	近くのストアへ買い物の付き添い支援。徘徊が著しい方には散歩誘導やドライブで気分転換が出来るようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族による聞き取りをはじめ、在宅サービス担当ケアマネの情報やサマリーを基に、日々の生活の中に生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの個別援助記録を記入し、昼間、夜間の状況、その時々の様子が把握できるようにしている。	○	洗濯干し、洗濯たたみ、新聞を読むなど今までやってきた日常生活が継続できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議において現在の状況報告を行い、スタッフ間でケアの方向を話し合っている。家族には面会時や電話等で必要に応じた情報交換を行いながら、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の見直しを行なっている。状況に変化があった時や介護度に変更があった場合もアセスメントをとり、ケアプラン原案を基に担当者会議を行なっている。家族の参加が無い時は電話でケアプラン内容を説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映	生活記録、業務日誌、申し送りノート、ケア チェック表を記入し、スタッフ間で情報を共有し ている。		
	日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かして いる			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援	遠方であったり、就労で家族の支援が困難な方 には、定期受診や外出の支援を行なっている。		
	本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な 支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働	運営推進会議に地域の民生委員の出席、市役所保 健衛生課の出前講座依頼、デイサービス（併設） ボランティアによる演芸など協力をもらっている。	○	ボランティアの協力を依頼していく。
	本人の意向や必要性に応じて、民生委員 やボランティア、警察、消防、文化・教育 機関等と協力しながら支援している			
41	○他のサービスの活用支援	介護保険サービスは利用できない為、他のサー ビス利用の実施はない。家族の協力が得られる方は 個別でお願いしている。（ヘルパー利用で通院な ど）	○	地域資源サービスの利用を取り入れて行きたい。
	本人の意向や必要性に応じて、地域の他 のケアマネジャーやサービス事業者と話し 合い、他のサービスを利用するための支援 をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働	運営推進会議にて包括支援センターに相談、助言 を得ている。		
	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護 や総合的かつ長期的なケアマネジメント等 について、地域包括支援センターと協働し ている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援	家族にはD r. と直接話していただき希望を取り入れている。かかりつけ医への定期受診、緊急受診を支援している。又、協力医院契約書を交わしておりD r. に直接連絡することができる。		
	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
44	○認知症の専門医等の受診支援	定期受診時には生活状況を報告し、相談している。経過を診ながら治療をしている。		
	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			
45	○看護職との協働	かかりつけ医受診時に看護師へ報告、相談を行なっている。		
	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	○早期退院に向けた医療機関との協働	ケアマネと管理者で面会に行き、担当者と早期退院や今後のホームでの対応など相談を行なっている。		
	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有	ホームに看護師がいない為、重度化した場合は、援助に限りがあることを家族やD r. に説明している。方針については職員も共有している。	○	本人、家族と重度化した場合のあり方を、繰り返し話し合えるようにしていきたい。
	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度、終末期に「できること・できないこと」は運営者と管理者、管理者とD r. とで話し合い、職員会議で今後の取り組みを検討している。		
	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止	家族との面談、ケア関係者との面談、情報提供表による確認を行なっている。	○	情報不足にならないよう情報収集には気を配り、住み替えによるダメージを防ぎたい。
	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底	利用者のプライバシーに関しては、職員会議等で常に話し合っている。気になる発言に関してはその都度、注意し予防に努めている。		
	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援	分かりやすく日課の説明を行い、希望に近づけるよう支援している。		
	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている			
52	○日々のその人らしい暮らし	表情などの観察、一人ひとりのペースに合わせたレク・行事参加の声掛け、誘導を行なっている。落ち着いてる時は様子を見て、時間をずらし対応することもある。		
	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援	家族による美容院へ外出がある。化粧をされる方のクレンジングは職員が一部介助を行なっている。洋服は極力本人に選んでいただいている。		
	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援	基本、調理は栄養士に管理されているが土・日とおやつは好みを取り入れるよう努めている。食事の下膳、テーブル拭きなど職員と一緒にこなしている。		
	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
55	○本人の嗜好の支援	既往歴と薬の関係により制限があるが、買い物で選択しながら支援している。		
	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している			
56	○気持ちよい排泄の支援	排泄チェック表により排泄パターンを把握している。随時、誘導を行い排泄の失敗は減っている。夜間は睡眠薬を服用している方や、骨粗しょう症の方がおり安全の為、オムツを使用している。		
	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している			
57	○入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回の支援を行なっている。時間制限も決まっておらず希望がある時などは入浴、又はシャワー浴が行なえるようになっている。職員も羞恥心に気を配り声掛け、部分介助の工夫など行なっている。		
	曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
58	○安眠や休息の支援	朝はカーテンを開け採光を取り入れ、本人のペースで離床を促している。日中は他の方と触れ合いを深め、夜は馴染みの職員による誘導や添い寝で安心して休まれています。		
	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している			
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	それぞれの能力に応じた支援を行なっている。家事、歌の会、音楽療法、風船バレー、テレビ観賞、読書、ドライブ、買物、散策、荷物整理など一日の中で色々な気晴らしを支援している。		
	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援	利用者の所持金は、必要最小限の金銭以外はトラブル防止の為、施設が管理している。買物、病院受診等の出納は全員の各出納帳に記録し、毎月家族にて確認を受けている。		
	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
61	○日常的な外出支援	毎月、行事予定を立て定期的に外出するなど気分転換を図っている。		
	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
62	○普段行けない場所への外出支援	運営推進会議で家族と共に計画を立て、春には利用者全員参加でフローランテ宮崎へピクニックに行き、半数以上の家族が参加した。自宅への外出、ドライブ、野外散策の支援をしている。	○	今後も家族の協力を呼びかけ、支援していきたい。
	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			
63	○電話や手紙の支援	利用者の希望により好きな時に電話が掛けられるよう配慮している。		
	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
64	○家族や馴染みの人の訪問支援	面会時間などの制限は一切無いので、馴染みの方はいつでも訪問できるようになっている。居室でゆっくりお茶を飲みながら過ごしてもらっている。		
	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践	施設では原則として身体拘束を行っていない。		
	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践	建物の2階部分がホームになっており、外階段があるため危険防止策として施錠を行っている。		
	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
67	○利用者の安全確認	必ず1名はリビングにいて見守りを徹底し、安全確認を行っている。		
	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			
68	○注意の必要な物品の保管・管理	個人で小さなハサミや軟膏など所持されている利用者も居るが、その人の状態を見ながら適時、対応している。 洗剤類、包丁は保管場所を配慮している。		
	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
69	○事故防止のための取り組み	職員会議での事故防止検討や火災避難訓練を実施している。 ・リスクマネジメントマニュアル ・ヒヤリハット、事故報告書		
	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる			
70	○急変や事故発生時の備え	職員会議での対応に関する勉強会の実施。 主治医及び、家族への緊急連絡網。 ・緊急時対応マニュアル ・緊急連絡網		
	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			
71	○災害対策	防災訓練の実施。 地区消防団員とのやりとりがある為、緊急時の協力を承諾してもらっている。 運営推進会議などで近隣への協力を依頼している。		
	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い	入居前においては本人について家族と十分な注意 点、留意点を聞き出し施設としての対応を検討し ている。家族には万が一の事故においては、不慮 の事故がありえる事を説明し、会社が補償保険に 加入していることも話している。		
	一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応	表情、行動、言動、血色等の変化がある時にはバイ タル再検を行う。変化があるときはすぐに管理 者等に報告し、かかりつけ医への連絡や受診に結 び付けている。 ・起床時バイタルチェック表 ・バイタル再検表 ・生活記録 ・業務日誌 ・申し送りノート		
	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている			
74	○服薬支援	毎月の職員会議で薬の変更や変更後の状態の変化 について全員に説明している。 ・服薬チェック表 ・服薬管理表 ・処方箋つづり ・業務日誌		
	職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている			
75	○便秘の予防と対応	確実な水分補給を行い、野菜などの繊維も摂取で きるよう刻んだり、ミキサーにかけるなどして対 応している。日常生活での歩行以外には体操、散 策、風船バレーなどを取り入れている。		
	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけ等に取り組んでいる			
76	○口腔内の清潔保持	歯磨き、うがい、義歯洗浄の支援。 訪問歯科検診・診療との連携。		
	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている			
77	○栄養摂取や水分確保の支援	食事内容及び、カロリーの管理は栄養士の献立に よる食事を提供している。摂取が困難な方には刻 みや、ミキサー食、栄養補助食品で対応してい る。水分は一定量補給ができるよう確認し、介助 を行なっている。 ・食事量チェック表 ・水分摂取表		
	食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防	施設マニュアルに基づき、予防を図っている。		
	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）			
79	○食材の管理	食器類及び料理器具の消毒。 食材の消費期限の管理をし、毎日、新鮮な食材を使用する様努めている。		
	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫	季節の花を飾ったり、プランターで花や野菜を育てている。 階段の昇降が困難な方の為に、車椅子でも使用できるエレベーターの設置。		
	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			
81	○居心地のよい共用空間づくり	行き届いた清掃を行い、リビングの壁面には毎月、季節を感じるようなディスプレイを施している。常に季節に応じた生花や鉢植えを飾っている。		
	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	自由に過ごせるよう、椅子以外にもソファやベンチを設置している。利用者の状況により、椅子の配置を変えるなどその時、居心地の良い場所作りを行なっている。		
	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	利用者本人が使用していた馴染みのある家具、布団、装飾品を準備していただき、居室で落ち着けるようにしている。		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
84	○換気・空調の配慮	随時、フロアの換気を行ない、利用者の離床後は居室の換気を行なっている。においの元となる布団類は定期的に日干ししている。フロア及び居室のエアコンは、過度な冷暖房は避けた調整をしている。		
	気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり	玄関から居室までバリアフリー造りとしており、壁際には手すりを設置し、安全に生活動作が行なえるようになっている。居室内ではタンスの配置も、手すり代わりなるよう工夫している。		
	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			
86	○わかる力を活かした環境づくり	トイレ表示は車椅子からの目線も考慮し表示している。各居室には馴染みのものを置き、自分の部屋であると共に、プライベートな空間であるという意識付けに努めている。		
	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	○建物の外周りや空間の活用	玄関のプランターには季節の花。坪庭には水槽を構えメダカを飼ったり、屋上では外気浴、ベランダでは洗濯のお手伝いなど、その時々に応じ活動的に楽しめる環境作りをしている。		
	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている			
() 部分は外部評価との共通評価項目です)				

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 入居者個人を尊重し、日常生活の中で能力が発揮できるよう支援している。
- 職員の気持ち（気付き）が暖かく落ち着いた雰囲気環境整備に反映している。
- 家族のように職員と入居者が関わり、毎日賑やかに過ごしている。
- 入居者の言葉を傾聴することにより、職員をいち個人として日々、成長し続ける。